

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-152	14-073	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳） Drinking pattern, abstinence and problem drinking as risk factors for depressive symptoms: evidence from three urban Eastern European populations. 抑鬱症状の危険因子としての飲酒習慣、飲酒の節制、問題飲酒：東ヨーロッパの3都市の調査より		
執筆者 Bell S, Britton A, Kubinova R, Maljutina S, Pajak A, Nikitin Y, Bobak M.		
掲載誌 PLoS One. 2014;9(8):e104384. doi: 10.1371/journal.pone.0104384.		
キーワード	PMID	
飲酒、抑鬱症状、東ヨーロッパ、横断研究	25118714	
要 旨 目的： 飲酒の頻度と量、年間総飲酒量、問題飲酒及び禁酒と抑鬱症状の関係を調べる。 方法： 2002 から 2005 年の間に、チェコ共和国、ロシア、ポーランドの 45 歳から 69 歳の 24,381 人を対象とした横断研究を行った。抑鬱症状は CES-D スケールで 16 ポイント以上とした。飲酒に関しては、段階的飲酒頻度による質問票を用いて評価を行った。大量飲酒は、エタノールとして 60g 以上を月に 1 度以上摂取している場合とした。年間のアルコール総摂取量も調査した。問題飲酒は CAGE によって 2 つ以上の肯定解答が見られた場合とした。 結果： 全ての集団と性別において、問題飲酒によって抑鬱症状のオッズは約 2 倍上昇した。禁酒は抑鬱症状の高オッズと関連していた。ロシアにおいて、元からの禁酒者と、ある時点から禁酒したグループを比較した結果、オッズの上昇はある時点から禁酒したグループによる影響であった。男性について見ると、チェコ共和国とポーランドにおいて高頻度・大量飲酒者が抑鬱症状の高オッズと関連していた。一方、女性ではロシアとポーランドにおいて低頻度の大量飲酒が抑鬱症状の高オッズと関連していた。ポーランドの男性でのみ、年間の飲酒量と抑鬱症状の高オッズとに関連が認められた。 結論： 東ヨーロッパにおいて、禁酒と問題飲酒は抑鬱症状の高オッズと関連していた。飲酒者群について、飲酒の頻度と量及び年間総飲酒量と抑鬱症状には地域男女で一貫した関連が見られなかった。		